

令和3年9月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 細 川 信 二

フロンティア秋田 倉 田 芳 浩

市 民 ク ラ ブ 工 藤 新 一

共 産 党 鈴 木 知

公 明 党 武 田 正 子

秋 水 会 川 口 雅 丈

フロンティア秋田 船 木 純

秋 水 会 伊 藤 一 榮

1 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 令和2年3月の市内1例目の感染確認から約1年半が経過したが、これまでの本市における感染の広がり、支援策等の成果と課題をどのように捉えているのか、また、それを踏まえた今後の対応策はどうか
- (2) 市長の記者会見のインターネット配信も行っているものの、市長の正確なメッセージは市民に届いていないように思われることから、情報発信をさらに増やすべきではないか、また、市民の命を守り抜くためにも、課題に沿った確かなメッセージを発信するとともに、強いリーダーシップを発揮し、市民に安心を与える情報を提供すべきと考えるがどうか
- (3) 先月11日に県独自の感染警戒レベルが4に引き上げられたが、要請が警戒レベルに対応していないことや市有施設についても一部を除き休止等を行わなかったことで、レベル引上げの真意が伝わらず、市民の警戒意識が高まっていないことをどう考えているのか、また、県の感染警戒レベルに応じた要請等も時間の経過とともに現状に即していないものとなってきていることに加え、本県における感染の多くは本市で発生していることから、本市独自の感染警戒レベルの設定や市民への要請を行うべきと考えるがどうか
- (4) 情報の発信、対応、支援等については、所管部局が複数にわたっていることから、新型コロナウイルス対策に関する部局横断的組織を再編成し、情報を集約するなど、権限を強化すべきと考えるがどうか
- (5) コロナ禍においても事業の継続に意欲を持って奮闘している中小企業・小規模事業者等が行う、コロナ対策としての店舗・事業所の改装、対策用備品の購入等に対し、補助金等による支援を検討すべきと考えるがどうか
- (6) 今年5月に行った川反・大町地区の飲食店従業員に対する無料PCR検査では、以後の発生抑止や注意喚起を含め、事業の成果はあったと考えているのか、また、成果があったとするならば、継続して同様

の事業を行うべきと考えるがどうか

(7) 企業、商店街、業界団体等への支援及び幼稚園・保育施設等への支援と対策については、それぞれの団体等と連携することで、より迅速で効果的に行えると考えられることから、要望を待つばかりではなく、自ら積極的に連携し、施策を実施すべきと考えるがどうか

(8) 小中学校における休校、学級・学年閉鎖、リモート授業及び児童生徒へのワクチン接種に関する教育長の考えはどうか

(9) 教育・保育施設及び市立小中高等学校等への抗原検査キットの配布について

ア 今回実施する検査キット配布の趣旨は何か、また、購入先や検査キットの単価等も含め、どのように検討し、実施に至ったのか

イ 検査キットの使用に当たっては、現場の負担も増えると思われるが、当該事業の実施は適切であると考えているのか、また、すぐに予定数を使い切ってしまうことも想定されるが、どのように対応していくのか

2 教育について

(1) 教育現場におけるICTの活用について

ア 教育現場におけるICTの活用については、コロナ対策で計画が前倒しとなったが、現時点での影響はどうか、また、本市における活用状況及び教職員等に対する講習の機会の確保についてはどうか

イ 児童1人に1台のタブレット端末が配付されたが、子供たちの机が小さく手狭であり、教室も補助机を置けるほどの広さがないため、端末を利用するたびに机の整理等をする必要があり、無駄な時間が発生していることや落下等による機器の破損が多発することも予想されるが、その対応をどのように考えているのか

ウ 既にゲームやスマートフォンの影響による児童生徒の視力低下が問題となっており、ICTの活用が進むことによって、今後、さらに視力が低下する児童生徒の増加が見込まれるが、小中学校における対策はどうか

(2) 少人数学級について

- ア リモート対応や教室の狭隘化など、ICTの活用と少人数学級化には深い関係性があるほか、教育の質の向上や教師の負担軽減、コロナ禍における身体的距離の確保の観点からも、少人数学級については、国のスケジュールより早期に進めるべきと考えるがどうか
- イ 今後の教育の在り方を考慮すると、30人程度のクラス編制が適正と考えることから、30人学級の実施について、本市独自で検討すべきではないか

(3) 学校適正配置における学校の統合について

- ア 既存の校舎を活用するという基本の方向性については、統合後に利用する校舎を考える際に、校舎の新しさや敷地の面積等がその判断に大きな影響を与えてしまい、結果として通学する子供たちの負担になることも考えられることから、校舎の新・改築という選択肢も排除せず、検討のテーブルに上げるべきではないか、また、文字どおり適正な配置を検討するのであれば、当初から学区の再編や校舎の新・改築等も考慮すべきではなかったのか
- イ 中学校統合の協議に当たっては、その影響が将来に及ぶことから、より関わりのある小学校の保護者も協議に加えるべきではないか

3 子供の安心・安全の確保について

- (1) 3歳児健診から就学時健康診断までの間に公的な健診の機会がないことにより、子供の成長に関して、気づきの機会を逸する場合もあることから、大館市で行っている「満5歳すてっぷ相談」のような個別の相談の場を設けるべきと考えるがどうか、また、保育施設等や保護者からの要請により行っている出張相談については、要請がなくても定期的に巡回するなど、より積極的に行うべきと考えるがどうか
- (2) 除排雪時において、小中学校や幼保施設周辺への雪山の積み残しは、視界不良や予期せぬ事故にもつながることから、行わないよう業者に指導徹底するとともに、除排雪時に配慮すべき施設のリストやマップを作成し、業者に提供してはどうか

4 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) 改めて、同地区のまちづくりの意義を考え、その未来図を市民が共有できるよう、まずは、市としての明確なビジョンを描くべきではないか

5 デジタル化推進に当たっての人材について

- (1) デジタル化の推進に当たっては、常識にとらわれない斬新な発想を持つ人材も必要と考えるが、デジタル化推進本部が求める人材、職員像はどのようなものか
- (2) 今月1日に発足したデジタル庁においては、約3分の1の職員を外部から登用したが、今後、本市の同推進本部において、ICT関係に造詣が深い職員の起用及び職務経験者、外部アドバイザー等の登用についてどう考えているのか

6 スケートパークの整備について

- (1) スケートパークは、本市の若者や子供の集いの場、練習場としてはもちろん、オリンピックを契機に今後、国内外の大会やスケートボードのトップアスリートの練習場としての需要も想定されることから、茨城県笠間市に今年4月にオープンした、民間との協働によるスケートパークのような施設の設置を検討する考えはないか

1 市長の政治姿勢について

- (1) コロナ禍の収束が見えない今、市長として市民に対し何らかの前向きなメッセージを発信すべきと考えるがどうか

2 災害時の避難について

- (1) 台風や大雨などによる災害が想定される浸水想定区域の住民には、避難情報に関するガイドラインによる新しい避難指示の詳細や避難の具体的な方法等について、事前に説明を行っているのか
- (2) 避難情報に関するガイドラインが策定された今年5月以降、高齢者等避難に該当する警戒レベル3以上の発令はどの地区であったのか、また、その際の実際の避難行動は正しく行われたのか
- (3) 避難指示が発令されても避難しない住民が多いと聞くが、本市ではその理由を把握しているのか
- (4) 夏の暑さも災害レベルと考えるが、猛暑日などは各市民サービスセンターやコミュニティセンターを開放し、冷房を所有していない住民に対して利用を促してはどうか

3 市立小中学校の学校グラウンドの芝生化及び市立小中高等学校等における新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 学校グラウンドの芝生化について
 - ア 芝生化を進める考えはないのか
 - イ 各地域ごとに芝生化モデル校をつくり、実践してみてもどうか
- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応について
 - ア デルタ株による若年層への感染が拡大していることから、児童生徒の感染リスクは高くなったと考えるが、学校生活や校外活動、部活動の大会等においてどのように対応していくのか

4 下水道及び大雨時の雨水の排水について

- (1) 合流式下水道で、住宅地の水路を通る吐き口は市内で何か所あるのか
- (2) 良好な水環境の確保や河川等への汚濁負荷を軽減するため、合流式下水道の改善対策は実施しているのか
- (3) 水路の悪臭対策等はどのように行われているのか
- (4) 大雨時に、トイレ等の排水不良が発生する地域や地区での改善策はないのか
- (5) 大雨時に、雨水が水路等を通して河川に放流される際、その排水量が追いつかずにあふれてしまう箇所はないか
- (6) 河川からの逆流防止のために設けられた施設により、大雨の際などに、住宅地への浸水につながった例はあるのか、また、その改善策はどうか

5 街路樹について

- (1) 剪定時の考え方について、これまで、安全な歩行者空間と標識等の視認性の確保を目的に剪定管理をしているとのことであったが、現在の剪定は適正に行われているのか
- (2) 街路樹の剪定方法に関して、各市民サービスセンターではどのような考えで行っているのか
- (3) 各市民サービスセンターによって街路樹の剪定方法等の対応にばらつきがあると感じるが、管理の責任の所在は、どの部局にあるのか
- (4) 飯島長野本町以北における横山金足線の街路樹は、今後どのように整備していくのか
- (5) 土崎環状線（自衛隊通り）の桜の木々は、今後どのように整備していくのか
- (6) 太い枝が剪定され、幹のみが残っている木が市内全域で散見されるが、そのような剪定は行うべきではないと思うがどうか
- (7) 街路樹で生育のよくない木々が見られるが、改善する予定はあるのか

6 市職員の待遇について

(1) 会計年度任用職員について

ア 任用に当たり、再度任用しなかった例はあるのか、また、その理由は何か

イ 年次有給休暇や出産・育児のための休暇等を見直す考えはないか

(2) 正職員について

ア 長時間労働の是正に向けた取組は、今後どのように行っていくのか

イ 業務量が大幅に増加した課所室が見られるが、兼務発令で対応するのではなく、新たに必要な人員を確保するべきではないか

7 新スタジアム整備について

(1) 新スタジアムの利用範囲は、現在のソユースタジアムをイメージしてよいか

(2) 外旭川地区に整備する方針とのことであるが、建設地が民間所有の場合、その取得費は誰が負担すべきと考えているのか

(3) 新スタジアムの建設等に係る公費負担については、本市としてどのように考えているのか

(4) ソユースタジアムの改修を望む声や経済効果を現実的に考えた場合、郊外よりも中心部に整備すべきとの声があるが、本市としてどのように考えているのか

(5) 今後の外旭川地区のまちづくりにおける事業パートナーの公募に当たって、新スタジアムの整備はどのように盛り込まれるのか

8 ガス灯について

(1) 現在休止しているガス灯を管理する土崎地区の地元商店街に対し、修理、補修等に係る費用の補助を行うべきと考えるがどうか

(2) LED化を考えた場合、灯具の交換などの費用を補助すべきと考えるがどうか

(3) 維持管理が困難になった場合、観光資源・歴史的資源と捉え、市が

引き取る考えはないか

- (4) 市が設置しているデザイン灯の維持管理は適切に行われているのか
- (5) 赤れんが郷土館前のガス灯を修理すべきと考えるがどうか

9 太平山登山道の整備について

- (1) 旭又登山口付近の崩落箇所に係る調査の状況はどうか
- (2) 同箇所に関して、迂回路または新道の設置が急務と考えるが、管理している県への働きかけは行っているのか
- (3) 二手ノ又登山口（いわゆるザ・ブーン口）からの登山道では、例年ヤマビルの被害があると聞くが、登山客への注意喚起を含めた対策等
は行っているのか

10 新たなスポーツ分野の整備に対する支援について

- (1) スケートボードについて
 - ア スポーツとしてのスケートボードに対する本市の認識はどうか
 - イ 公営スケートパークを設置する、もしくは民間で整備するスケートパークに支援する考えはないか
- (2) サーフィンについて
 - ア スポーツとしてのサーフィンに対する本市の認識はどうか
 - イ 今後増えると予想されるサーフィン愛好者に対して、ハード面の整備など、本市として支援を行っていく考えはないか

1 市役所本庁舎内に設置した民間の新型コロナPCR検査センターについて

- (1) 同センターを市民ホールに設置した理由は何か、また、市民ホールは、不特定多数の市民が行き交う場であることから、同センターの設置により、感染拡大のおそれはないのか、さらに、関係機関からの支援は事前に得ていたのか
- (2) 同センターの設置に当たり、本市はどのような根拠に基づいて、行政財産の使用許可を行ったのか
- (3) 同センターの設置者は民間企業であり、市職員を同センターの関連業務に従事させようとしたことは、地方公務員法などの法令に抵触しないのか
- (4) 同センターでの検査結果について、保健所はどのように把握する体制となっているのか

2 新型コロナウイルスワクチン接種について

- (1) 3回目の接種について
 - ア 本市におけるこれまでの接種クーポン券及び予約、接種方法等の在り方を見直し、早急に3回目の接種に向けた準備を進める必要があると思うがどうか
- (2) 65歳以上の未接種者への支援について
 - ア インターネット環境がなく、コールセンターに何度電話してもつながらないために接種を諦めた方がいるが、このような方々を特に支援する必要があることから、予約手続を行う専用窓口を各市民サービスセンターに設置すべきと思うがどうか

3 秋田市卸売市場再整備計画等について

- (1) さきの6月定例会の附帯決議に基づいた対応の検討は、どのように行われたのか

- (2) これまで市場関係者から様々な要望を聞き取りしたとのことであるが、要望内容について秋田市卸売市場再整備基本方針にどのように反映されているのか不明確であることから、どのように集約したのか
- (3) 施設規模だけでなく、将来を見据えた県都における卸売市場のあるべき姿と役割、それに伴う施設設備について検討すべきと考えるがどうか
- (4) 同計画は、市が検討している周辺のまちづくりと連動させずに検討したほうがよいと考えるがどうか

4 特別支援教育及び医療的ケア児への支援について

- (1) 文部科学省は、今後も障がいを持つ児童が増加すると見込んでいるが、本市の今後の動向はどうか
- (2) 同省が示した通達及び具体的な指針である小学校等における医療的ケア実施支援資料を踏まえ、現在どのような準備が進められ、将来どのような教育環境を目指すのか

5 災害時におけるアマチュア無線の活用及び連携について

- (1) 災害時の活用及び連携について、本市としてどのように検討したのか
- (2) 秋田市役所アマチュア無線クラブ、無線局、関係団体等との日常的な連携を今後どのように図り、災害時の情報伝達・収集に結びつけるのか
- (3) アマチュア無線従事者及び関係団体との連携を積極的に図るべきと考えるがどうか

6 窓口対応について

- (1) 一般的な業務の習得以外に、相談者の心情を酌み取れるような接遇研修が必要と考えるがどうか
- (2) 実際の接遇研修は、特に何を意識して進められているのか
- (3) 苦情のあった内容をどのように集約し、改善を図っているのか

7 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) さきの6月定例会における附帯決議に基づき、外旭川地区のまちづくりにおいては、卸売市場の再整備に集中し、再整備によって生み出される波及効果を明らかにすべきと思うがどうか
- (2) 「未来農業」は、新しい世代が担い手を生み出すと考えられるが、農業継承の新たな姿であることから、本市の特徴を最大限に生かした農業基盤の一つとなり得ると考えるがどうか
- (3) 「農業未来都市」を構想し、今後のまちづくりの柱としてはどうか

1 市長が思い描くまちづくりについて

- (1) 市長が思い描くまちづくりは、若者が魅力を感じるものとなり得るのか
- (2) 若者が未来を思い描けるまちづくりを進めるのであれば、その時々
の流行に合わせて、若者たちが自由に活用できるエリアを市内に複数
配置してはどうか
- (3) 外旭川地区のまちづくりについては、当該地区における市民生活の
充実にどのように寄与するのか、また、市長が思い描く将来のまちの
姿は、民間任せにせず、市民に示すべきではないか

2 新型コロナウイルス感染症について

- (1) 感染者の自宅療養は、家庭内感染、濃厚接触者の増加、症状の急変
もあり得ることから、行うべきではないと考えるがどうか、また、市
として、宿泊療養施設を確保すべきではないか
- (2) ワクチン接種について
 - ア 接種を終えていない高齢者への働きかけは行われているのか、ま
た、接種を希望していても終えていない高齢者への対応を検討する
べきではないか
 - イ 市職員をはじめ、運輸・観光・飲食・宿泊業など人的交流の多い
業種に従事している市民には、早期の接種を勧めるべきではないか
 - ウ 若者のワクチン接種に対する意識を高めるため、ワクチン接種の
有効性や副反応などについて、正確な情報提供を行うべきではない
か
 - エ 接種率を高めるため、ワクチン接種証明書を発行し、証明書を活
用した景気対策を兼ねたインセンティブを検討してはどうか
- (3) 市立小中学校について
 - ア ワクチン接種のできない小学生の感染予防を徹底し、保護者への
注意喚起と学校への支援を強めるべきではないか

イ 長期休業後、学校を再開する際には、全児童生徒を対象に検査をすべきではないか

ウ 現状、感染対策とICT化が進む中で教室が手狭になっていることから、暫定的に1学級30人以下にすべきではないか

エ コロナ禍において、修学旅行の実施は、教育委員会として統一した判断基準を設けるべきではないか、また、昨年度と同様に、キャンセル料は市が負担すべきではないか

(4) 秋田公立美術大学において、オンライン授業が導入されているが、オンライン環境にない学生への支援が必要であり、市として支援すべきではないか

3 子ども未来部と子育て支援について

(1) 子ども未来部が発足して10年になるが、当初の目的は果たされているのか、また、今後の課題は何か

(2) 子育て支援の在り方は、全ての子供が対象となる出産、医療、教育を基本として、その他必要に応じた全体的な支援を検討すべきではないか

(3) コロナ禍において、子供の医療費は所得制限と自己負担分をなくしてはどうか、また、国民健康保険税の子供の均等割をなくしてはどうか

(4) ワーク・ライフ・バランスは仕事と生活の調和であり、その概念には働きながら育児・介護をするための制度や環境の整備、男女の差別と格差を解消することが含まれていることから、子ども未来部で扱う事務から移管させ、男女共同参画社会の実現と一体に推進していくべきではないか

4 熱中症対策について

(1) 生活保護受給世帯及び低所得者世帯に、エアコン設置の支援を検討すべきではないか

(2) 熱中症リスクの高い高齢者への見守りを強化すべきではないか

1 コロナ禍における各種支援について

(1) 市内事業者への支援について

ア 現状における市内事業者の経営状況をどのように認識しているのか

イ これまで実施された新型コロナウイルス感染症関連の各種支援事業の成果と課題についてどのように認識しているか、また、課題を踏まえた今後の支援についてはどのように考えているのか

(2) 生活に困窮している市民への支援について

ア 自粛生活の長期化に伴う生活費の増加や灯油価格の上昇が懸念されるが、今冬において平成26年に実施した福祉灯油購入費助成事業を再度実施する考えはないか

イ 生理用品の無償配布については、地域女性活躍推進交付金や地域子供の未来応援交付金を活用し、今後NPO法人などと協力して実施する考えはないか

2 不妊治療と仕事の両立支援について

(1) 県はNPO法人と提携し、全職員を対象とした不妊治療と仕事の両立実態調査を実施しているが、本市においても同様の調査を行うことで現状及び課題を把握し、両立できる職場環境を構築すべきではないか

(2) 職場における不妊治療への理解を深め、相談しやすい環境づくりを推進するため、企業の経営者や人事労務担当者を対象とした不妊治療と仕事の両立に関するセミナーを開催してはどうか

3 ヤングケアラーへの支援について

(1) ヤングケアラーを早期発見し支援するため、まずは本市としてヤングケアラーの実態調査をすべきではないか

(2) 関係者及び当事者からの相談窓口の設置など、ヤングケアラーに必

要なサービスを実施する考えはないか

4 子供食堂について

- (1) 現状における本市の支援状況はどうか、また、今後、子供食堂に対する支援を拡充する考えはないか
- (2) 個人や企業などに対して子供食堂への支援を働きかける考えはないか

5 市立小中学校における I C T 環境整備について

- (1) タブレット端末を導入して約半年が経過したが、現時点におけるハード面での課題は何か
- (2) 学習活動における I C T の効果的な活用を図るため、教師の指導力をどのように向上させるのか
- (3) 不登校の児童生徒や特別な配慮が必要な児童生徒に対する I C T 活用の状況はどうか、また、I C T を活用した今後の支援についてどのように考えているのか

6 通学路の安全・安心の確保について

- (1) 過去 3 年間に於いて、市立小中学校の児童生徒の登下校中における交通事故発生件数は何件か、また、主な事故原因の把握や再発防止に向けた対策は行っているのか
- (2) 秋田市通学路交通安全プログラムにより実施している通学路における合同点検については、見守りボランティア及び地域住民から、いわゆるヒヤリ・ハット事例があった箇所を聞き、実施箇所に加える仕組みを構築してはどうか
- (3) 車の速度が上がりやすい見通しのよい道路や幹線道路の抜け道になっている道路などについても合同点検を行い、必要に応じて安全対策を講じてはどうか

7 帯状疱疹ワクチン接種への助成について

- (1) 80歳までに約3人に1人が発症されている帯状疱疹の症状を抑え、後遺症を残さない唯一の方法である同ワクチンの接種に対して、本市として費用を助成するべきではないか

1 新型コロナウイルス感染症対策について

(1) 中小企業・小規模事業者等への支援について

ア 昨年度実施した本市独自の事業について、コロナ収束の見込みをいつ頃と想定していたのか

イ コロナ収束の見込みが立たない状況であることから、県の経営安定資金（新型コロナウイルス感染症対策枠）の貸付期間の延長など柔軟に対応できるよう、県に制度の変更等について働きかける考えはないか

ウ 本市独自に、長期的に経営を安定的に行えるよう、支援を実施する考えはないか

(2) 本市で実施している新型コロナウイルス感染症対策プレミアム付商品券発行事業について大変好評であったことから、生活支援・市内経済の回復を図るため、切れ目なく次の事業を実施する考えはないか

(3) 市民が安心して生活できるよう、同感染症に関する情報をできるだけ早く提供すべきではないか

(4) 同感染症の自宅療養となる罹患者の容体が急変し、救急搬送を要するケースの増加も想定されるが、通常の救急搬送にも支障なく対応できるよう、十分な態勢を確立する必要があると考えるがどうか

(5) 市立小中学校において、タブレット端末等を活用した自宅等でのリモート授業を行う上での課題は何か、また、その体制が整備できるのはいつ頃か

2 災害・豪雪への対応について

(1) 豪雨災害、内水氾濫等において、短時間で浸水などが発生する場合、自分の身を守るためには自分で判断し避難することが必要となることから、今後どのように自助の考え方を啓発していくのか

(2) 市民の命を守り抜くため、市が町内会や自主防災組織にどのような役割を期待するのか情報発信すべきではないか、また、町内会等に

対し、その役割に応じた支援を行うべきと考えるがどうか

- (3) 豪雪の際に排雪が追いつかず、交差点等に雪が積まれ、交通の安全性等に支障があることから、民有地等を利用した一時堆雪場を確保するべきではないか

3 市職員の定年退職後の生活等について

- (1) 定年年齢の引上げの進捗状況はどうか
- (2) 年金受給までの再任用は担保すべきと思うがどうか
- (3) 職員の再就職に関する公平性・透明性を高めるため、課長級以上で退職した職員が離職後2年以内に営利企業等に再就職した場合、再就職情報等の報告・届出を義務づけているが、離職後2年としている理由は何か

4 市立秋田商業高等学校について

- (1) 同校の校舎は、築43年が経過しており間もなく建て替えの必要があるが、校舎の建て替え時期などについて、どのように考えているのか

5 地域の諸課題について

- (1) 明田地下道西交差点の渋滞緩和策の進捗状況はどうか
- (2) 市道大堰反線の歩道整備の現状及び今後の計画はどうか

1 デジタル化を推進する施策等について

- (1) デジタル化を推進するため、秋田市デジタル化推進計画の個別施策をデジタル化推進本部が主体的に実施すべきと考えるがどうか
- (2) リモートワークを推進するための具体的な施策と課題は何か
- (3) メールの誤送信による情報漏えいを減らすため、システムの改修などハード面での対策を講じるべきと考えるがどうか

2 本市に設置している風力発電の風車への対応について

- (1) 落雷や機器の異常等により、発電機等を収納する部分であるナセルが発火した際の消火活動はどのように対応するのか
- (2) 多数の風車の設置に伴い、通信機器、テレビ・ラジオ等の受信障害及び風車が発する低周波音による体調不良について、市に直接問い合わせはあるのか、また、そのような場合に市が対応できることはあるのか

3 洋上風力発電工事の騒音について

- (1) モノパイル打設音について、周辺住民から市に直接問い合わせはあるのか、また、そのような場合に市が対応できることはあるのか

4 新型コロナウイルス感染症について

- (1) 秋田市新型コロナウイルスワクチン接種予約システムについて
 - ア 高齢者に配慮し、元号で生年月日を入力できるようにすべきであったと考えるが、導入当初、西暦入力としたのはなぜか
 - イ システムの動作確認や検証作業はどのように行っているのか
- (2) 新型コロナウイルスワクチンの保管において、停電や保管冷凍庫の故障など有事への対応は万全か

5 教育について

- (1) 市立小中学校において、タブレット端末を使用する授業での、描画・動作遅延による授業時間ロスを低減するため、通信環境の改善が早急に必要と考えるがどうか
- (2) プログラミングソフト利用時に多用する、ドラッグ・アンド・ドロップの操作を容易にするため、タッチペンを準備すべきと考えるがどうか
- (3) 市立中学校において、ツープロックの禁止、髪留め・下着の色の指定などの校則があるが、社会の変化や多様性に対応した校則に変更する必要があると考えるがどうか

6 交通安全対策について

- (1) 交通事故の発生が懸念される危険な通学路での安全確保のため、地域住民による見守り活動の促進と交通指導隊員の増員を図るべきと考えるが、その現状はどうか

7 排雪について

- (1) 全市一斉除排雪時に、中央地域の堆雪場である旧秋田空港跡地付近で交通渋滞が発生するため、新規場所の確保による堆雪場の分散や、ダンプトラックの回転率向上による排雪の効率化を図るべきと考えるがどうか

8 土崎空襲を後世に伝える取組について

- (1) 白黒画像をデジタル処理でカラー化することにより、当時の状況がより現実的に伝わりやすくなることから、このカラー画像を活用して土崎空襲を後世に語り継ぐ活動をすべきと考えるがどうか

1 本市のまちづくりについて

(1) 外旭川地区のまちづくりについて

ア 卸売市場の再整備について、「まちづくりの提案で事業概要が示された段階から、市場再整備構想との整合を図るとともに、随時、外旭川地区まちづくりと調整を行い基本構想の策定作業を進める」としているが、どのような手法で進めようとしているのか、議会に対し具体的にわかりやすく説明すべきではないか

イ 事業パートナーの公募要件を早急に明らかにするべきではないか、また、公募及び選定はいつ頃になるのか、さらに、事業パートナー選定後のスケジュールをどのように考えているのか

ウ 現時点では、新スタジアム整備について、県・市が整備する範囲とされている規模、機能をどのように考えているのか、また、整備主体の在り方など多岐にわたる諸課題の解決に対して本市はどのように関わっていくのか

エ 同地区のまちづくりは、近隣の商業地域へ大きな影響を与えると考えられるが、本市としての認識はどうか、また、どのように対応していくのか

(2) 中心市街地の活性化について

ア 第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の計画期間が、令和4年3月までとなっているが、各事業の進捗状況はどうか、また、これまでの検証結果をどのように評価しているのか

イ 低未利用地の活用状況はどうか、また、有効活用に向けて、今後の施策をどう展開していくのか

ウ 恒常的なにぎわいの創出のためには、より集客力のある商業施設が必要と考えるが、本市としての認識はどうか

2 人口減少社会における雇用の場の創出について

(1) 人口減少対策としての賃金水準の向上について、本市の認識はどう

か、また、今後、どのような取組を行っていくのか

- (2) 女性、若者、研究・開発を志す人材にとっても仕事のやりがいを実感でき、賃金水準の高い雇用の場の創出を図る施策はあるのか

3 男女共同参画の推進について

- (1) 本市が目指す審議会等の女性の公職参加率50%及び職員における女性管理職の割合18%について、計画期間内に目標値の達成は可能なのか、また、将来的にあるべき姿をどのように考えているのか

- (2) 本市男性職員の育児休業取得率及び市内企業における女性管理職の登用率・男性の育児休業取得率について、目標値を定めるべきではないか、また、登用率・取得率の向上に向けた取組をどのように進めていくのか

4 職員の働き方の検証等について

- (1) 月45時間を超える時間外勤務実績のある課所室数及び主な業務内容は何か、また、現在、改善は図られているのか、さらに、ノー残業デーの遵守は徹底されているのか

- (2) 業務量、業務負担の偏り等の詳細を精査し、適正な人員配置を図り、時間外勤務の縮減を目指すべきではないか

- (3) 新型コロナウイルス感染症の対応に当たる保健所職員の今年度1人当たりの時間外勤務の時間数の実績はどうか、また、勤務状況は現在、改善されているのか、さらに、同感染症の対応に当たる保健所職員は十分に確保されているのか

- (4) 最低賃金の引上げにより、一部の会計年度任用職員の給与が、最低賃金を下回ることから、会計年度任用職員の給与を引き上げるべきではないか

5 民間事業者の新型コロナPCR検査センターについて

- (1) 同センター設置までの経緯及び検査会場を本庁舎1階市民ホールに決定した理由は何か、また、検査件数は何件か

(2) 行政財産使用料を免除とした理由は何か

6 洪水対策及び河川防災ステーションについて

(1) 田んぼダムの効果について、本市として、どのように認識しているのか、また、今後、普及に取り組んでいく計画はないのか

(2) 河川防災ステーション整備の進捗状況及び課題は何か、また、今後の見通しはどうか

7 地域の課題について

(1) 街路樹の剪定整備及び歩道改良工事は、関連しており、規模も大きいことから、道路建設課が担当すべきではないか

(2) 街路樹の剪定整備計画及び歩道改良工事計画を明らかにすべきでないか、また、御野場団地で行われている街路樹剪定整備及び歩道改良工事の完成はいつ頃となるのか